

がんセンターおより

病院長就任のご挨拶

病院長 酒井 リカ



2023年4月1日付で病院長に就任いたしました酒井です。よろしくお願いたします。当センターは1963年に前身である神奈川県立成人病センターとして開設され、1986年に神奈川県立がんセンターとして再編、2007年に都道府県がん診療連携拠点病院に指定され、60年間、神奈川県のがん診療・研究の中核機関としての役割を果たしてきました。2015年に開始した重粒子線治療、2019年のがんゲノム医療拠点病院の指定により、鏡視下及びロボット支援による低侵襲手術を含む手術治療、高精度放射線治療などの光子線治療、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤を含むがん薬物療法に加え、重粒子線治療、がんゲノム医療は当院における高度ながん医療の柱になっています。私たちは診療科・職種横断的に密に連携して、ひとりひとりの患者さんにとって最良となるがん医療の提供に努めています。

近年、がん医療は日進月歩の発展を遂げています。患者さんが安全で質の高い医療を継続して受けていただくためには、必要な

支援をタイムリーに届けることが求められています。患者支援部を中心に様々なサポート体制を敷いており、高齢がん患者さんの診療体制の強化、ならびに、若年成人（AYA）世代がん患者さんのサポートにかかわる多職種チームも新たに立ち上がりました。また、今年3月から開始された相鉄と東急の直通運転を受け、これまで以上に、地域の医療機関との更なる連携の充実を図りたいと思います。

現在、当センターは日本医療機能評価機構病院機能評価による一般病院3の受審にむけ、職員一丸となって活動しています。その過程で得られた様々な気づきと改善に向けた取り組みは、我々が目指す病院像（バリュー）、“患者さんに選ばれ、職員が生きがいと誇りを持てる病院”の実現に向かっていくことを確信しています。“すべては患者さんのために”をモットーに、県内の医療施設の皆さまと連携し、安全で質の高いがん医療を提供する所存です。今後とも皆様方のあたたかいご支援とご助言を心よりお願い申し上げます。

就 任 の ご 挨拶

4月1日より副院長（医療安全担当）を拝命いたしました。当センターは「安全で質の高い医療の提供」を行動指針に掲げ、（安全管理体制の構築（職員への教育・研修（医療事故を防止するための情報収集、分析、対策立案、フィードバック、評価（医療事故への対応（安全文化の醸成を五つの基本的な柱とし、医療安全活動を行っております。近年の医療は、ますます高度化・複雑化しており、医療現場では多くの職種が関わっております。継続的に改善・改革を進め、多職種が協調して医療安全に取り組む必要があります。患者の皆様は、自信をもって「安全で安心な医療」を提供できるよう、医療安全推進室、全職員が一体となって取り組んで参ります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



副院長
森永 聡一郎



副院長
大島 貴

令和5年4月1日付けで、神奈川県立がんセンターの副院長に任命されました。皆様に深く感謝申し上げます。

当センターの使命は、がん患者さんへ最良の医療を提供する一方、先端的な研究を推進し、未来のがん医療をリードすることだと考えています。これまで培われてきた最先端の医療技術と治療法を継承しつつ、新たな治療法の探求、そして最新の医療技術の導入により、がんの早期発見、予防、そして治療に取り組み、がんと闘う全ての人々を支え、前進する手助けをすることが私たちの使命だと考えています。

副院長としての私の任務は、この信念を皆様と共有し、全てのスタッフが一丸となって取り組むことができるよう支援し、がん治療の最前線に立ち続けるための取り組みを推進していきたいと考えています。その中で、私自身が学び、成長し、当センターのみならず、我が国のがん医療の更なる発展のために、貢献していけるよう全力を尽くす所存です。皆様のご指導とご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

呼吸器外科部長の伊藤宏之です、2023年4月より医療技術部長を拝命いたしました。初回の入職は1999-2002年、2回目は2005年より現在に至り、足掛け20年もの時間をがんセンターとともに過ごしてまいりました。本業の呼吸器外科を担いつつ、パス会議、ICT、SSI対策、病院HP更新、医師の会会長、診療科データベース事業、ブラックジャックセミナーなど多くの仕事に携わり、3年前には手術部長、臨床工学科長も拝命しております。これ



医療技術部長
伊藤 宏之

までの経験を生かし、医療技術部長の大役を果たしたいと思っております。この部門は、放射線診断、治療、医学物理工学、検査、栄養、薬剤、臨床工学、リハビリの8部門から成り、医師と看護師を除く、医療に携わるすべての職員が所属し、100名を超えるスタッフがおります。医療はご存知の通り技術の進歩、考え方の発展により複雑化してきており、多職種連携が深く求められております。医療技術部はそれぞれが独立している部門ですが、今までの経験と人のつながりを生かしつつ、次の10年を見通した更なる連携と、より良い医療提供に向けた体制作りにも寄与できればと思っております。よろしくお願いいたします。



看護局
大番 美奈子
副看護局長

4月1日付けで循環器呼吸器病センターから、副看護局長として配属となりました大番美奈子と申します。

初めてがんセンターを訪れたときは、明るく、きれいで、広い印象があり、患者様に安心感を持ってもらえる施設だと思いました。ここで働くにあたり、「がんと共に生きる患者に寄り添い、その人らしさを大切に最良の看護を提供します。」という看護局の使命に向かって、微力ながらまい進したいと思います。

高度な治療を提供するがんセンターの看護師として、最良の看護を提供するために患者様に寄り添うとはなにか、その人らしさとは何かを問いながら関われるような環境を皆さんと作っていけるようにしたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

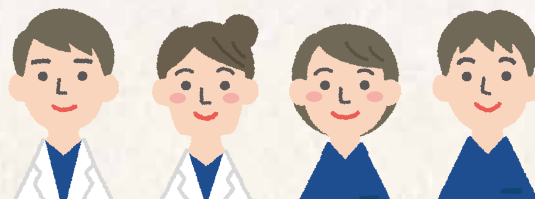
今年度、循環器呼吸器病センターより副看護局長として配属されました平井と申します。がんセンターには、6年ぶりに戻ってまいりました。また皆さんと共に働くことができる喜びを感じております。

コロナ禍の3年間は、これまで大切にしてきた看護が思うように実践できない歯がゆさもあったのではないのでしょうか。コロナが5類に移行し、少しずつ前の状況に戻りつつあります。教育担当副看護局長として、がん看護の専門性を発揮し、質の高い看護が提供できるよう支援していきたいと思っております。そして、一人ひとりがひまわりのように太陽に向かって伸びやかに育ってほしいという願いをこめた「ひまわり支援」に尽力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



看護局
平井 直美
副看護局長

新任のご紹介



医療局



内分泌外科 部長
益戸 功彦



婦人科 部長
佐治 晴哉



呼吸器外科 医長
永島 琢也



血液・腫瘍内科 医長
寺中 寛



婦人科 医長
横澤 智美

医療局



呼吸器内科 医師
成田 篤哉



呼吸器外科 医師
重福 俊佑



血液・腫瘍内科 医師
香月 健吾



血液・腫瘍内科 医師
小西 宏明



消化器内科(消化管) 医師
濱 崇哲

医療局



消化器外科(胃食道) 医長
森田 順也



消化器外科(大腸) 医師
井口 健太



脳神経外科 医師
小山 薫



乳腺外科 医師
合田 杏子



婦人科 医師
吉川 千晶

医療局



泌尿器科 医師
白井 公紹



骨軟部腫瘍外科 医師
志賀 輝



レジデント 37期生 医師
渡部 こずえ



レジデント 37期生 医師
鈴木 敦人



レジデント 37期生 医師
金本 滯

医療局



レジデント 37期生 医師
朝井 靖二



レジデント 37期生 医師
田邊 美恵



レジデント 37期生 医師
大西 美沙



専攻医 医師
神戸 亮



専攻医 医師
奥田 達也

医療技術部



放射線治療技術科 科長
井出 伸介

看護局



4E 科長
松尾 里香



6W 科長
佐藤 律子



医事・診療情報管理課長
新宅 賢一

幹部職員

診療局

医療局



消化器外科（肝胆膵） 部長
山本 直人



リハビリテーション科 部長
佐久間 藤子



内分泌外科 医長
戸田 宗治



呼吸器内科 医長
片倉 誠悟



呼吸器外科 医長
村上 浩太郎

診療局

医療局



消化器外科（肝胆膵） 医長
上岡 祐人



放射線治療科 医長
島 聖



消化器内科（肝胆膵） 医師
山近 由衣



消化器内科（肝胆膵） 医師
濱口 智美



消化器外科（肝胆膵） 医師
河原 慎之輔

診療局

医療技術部



薬剤科 科長
櫻井 学

診療局

看護局



5W 科長
新栄 身和子

皆さんどうぞよろしく
お願いいたします!

令和4年度患者満足度調査の結果について

実施期間

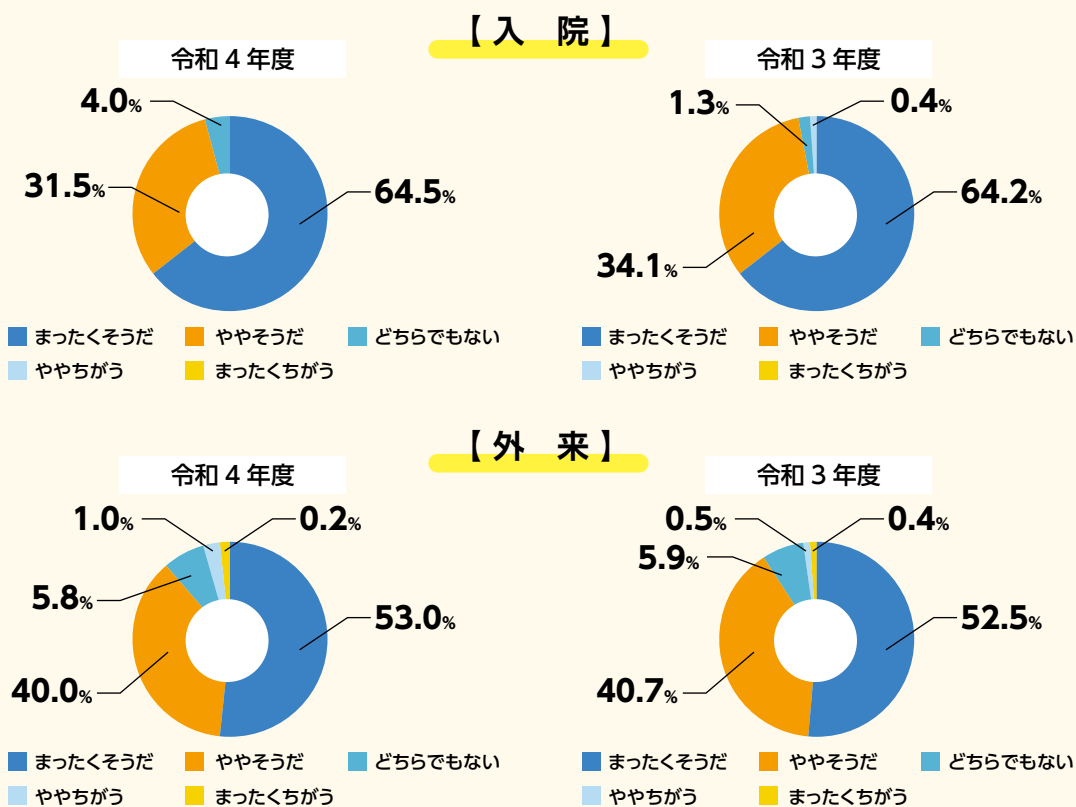
- 入院 令和4年10月24日～11月4日
- 外来 令和4年10月25日～10月28日

回答数

- 入院 298件
- 外来 898件

患者満足度（総合評価）は、前年度と比べて、入院が98.2%から96.0%へ、外来が93.3%から93.0%へと下がっています。皆様から寄せられたご意見も踏まえて、満足度が高まるように、病院運営に生かしてまいります。

1 患者満足度（総合評価）



※満足率の考え方…回答数のうち「まったくそうだ」「ややそうだ」と答えた人の割合

2 病院全体の満足度

[最大値：10点] ※（ ）内の数値は前回調査との差異

病院全体の評価	入院	外来
プライバシー保護は充分だった	7.1 (0.2)	6.3 (▲0.1)
病院に満足している	8.0 (▲0.1)	7.2 (0.0)
病院を信頼している	8.3 (0.1)	7.5 (▲0.1)
家族、知人に勧めたい	7.9 (0.4)	6.9 (0.1)
医療サービスを高めるために、努力し向上している	7.8 (0.1)	6.5 (▲0.1)

3 項目別満足度

[最大値：10点] ※ () 内の数値は前回調査との差異

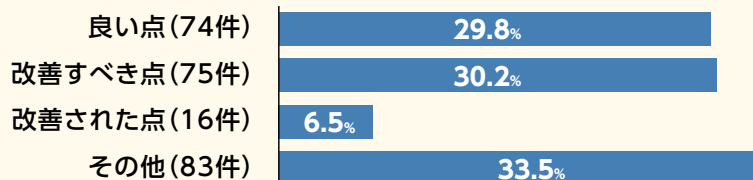
項目		満足度
入院		
入院時の説明等 (医師説明、入院手続き、入院中生活説明)		6.7 (0.2)
入院中の診療や医療スタッフ (医師の説明・診療、看護師の説明・処置、介助等)		7.6 (0.0)
入院中の具体的な治療 (検査、薬剤師・栄養士の説明・指導、手術、リハビリ)		7.6 (0.2)
施設・設備・情報提供 (トイレ・浴室、病室内環境、エレベーター・階段、食事、がん相談等)		6.4 (0.1)
退院 (退院説明、会計)		6.8 (▲0.4)
総合評価 (院内仕組み、病院全体)		7.8 (0.1)
外来		
診察前 (紹介、待ち時間、待合室環境)		5.5 (▲0.1)
診察や医療スタッフ (医師の診察、看護師の説明・処置)		6.7 (▲0.3)
検査 (尿検査、血液検査、CT、MRI、レントゲン、処置・説明)		7.7 (▲0.1)
施設・設備・情報提供 (診察室、院内設備、がん相談、情報提供)		5.7 (▲0.3)
会計 (順番が公平・長く待つ、請求書、職員対応、自動清算機)		4.3 (▲0.5)
総合評価 (病院全体)		6.9 (0.0)

※ 2・3の満足度の考え方

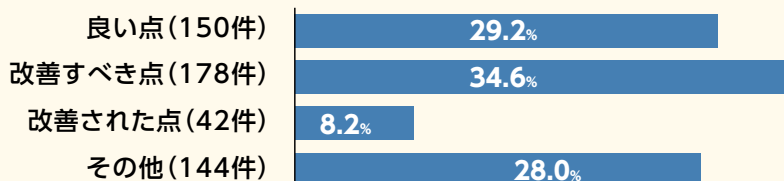
各設問の回答項目「まったくそうだ」、「ややそうだ」、「どちらでもない」、「ややちがう」、「まったくちがう」の回答者数に対し、それぞれ10点、5点、0点、-5点、-10点を掛け、満足度を回答数で割った平均の数値。

4 意見要望について

【入院】



【外来】



良い点では、入院・外来とも「施設がきれい、清潔」「医師、看護師さんが優しい」の意見が多く、改善すべき点では、入院が「食事」「職員間の連携」、外来では「会計・診療の待ち時間」の意見が多く寄せられました。また、改善された点として「Wi-Fiの整備」「駐車場の整備」「化学療法室のトイレ」などを評価していただきました。

今回の調査を通じて、皆様からいただきましたご意見をもとに、今後より良い病院運営ができるように活かしてまいります。ご協力いただきました患者さん、ご家族の皆様にお礼申し上げます。

4月20日
開催

第34回 県民のための公開講演会 「がん免疫治療の最前線」

臨床研究所・がん治療学部
菊地 慶司

さる4月20日（木）、横浜馬車道にある横浜市市民文化会館 関内ホール（小ホール）にて、県民のための公開講演会「がん免疫治療の最前線」を臨床研究所の主催として開催し、100人を超える方々にご来聴いただくことができました。がんの免疫治療は2018年にノーベル医学生理学賞を受賞した本庶 佑・京都大学特別教授らの発見をもとに開発された「免疫チェックポイント阻害剤」をはじめ、今回の講演会で紹介させていただいた革新的な技術の導入によってめざましい発展を遂げつつあります。

講演会では臨床研究所・がん免疫療法研究開発学部の笹田哲朗部長より「がんが免疫を弱める能力を叩く！～免疫チェックポイント阻害剤治療の現状」、臨床研究所・がん免疫療法研究開発学部の紅露拓チームリーダーより「疲れない免疫細胞でがんを叩く！～キメラ抗原受容体T細胞療法開発研究」、乳腺内分泌外科の山下年成部長より「抗体にくっつけた抗がん剤でがんを叩く！～がん治療における抗体薬物複合体（ADC）の展開」、そして頭頸部外科の古川まどか部長より「光を利用した免



疫治療でがんを叩く！～頭頸部がんアルミノックス治療（光免疫療法）」を紹介させていただきました。

来場の皆様からのアンケートでは「医学の進歩の速さに驚きました。」「新しい治療法がいろいろ開発され効果を上げていることをとても心強く思います」等、おおむね好評の感想をいただくことができました。ご来場下さった皆様、演者の先生方と古瀬総長をはじめご協力くださった関係者の方々に感謝いたします。また、今後もこのような講演会を通して県民の皆様にごんの最新情報を的確にお伝えしていけるよう臨床研究所も努力して参ります。



第4期がん対策推進基本計画について

第4期がん対策推進基本計画は「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」を全体目標としてスタートしました。3本の柱は「がん予防」と「がん医療」の充実、「がんと共生」です。

がんと共生できる社会環境の整備では、取り組むべき施策として、多様化複雑化する相談のニーズに対応できる質の高い相談支援体制の整備等が盛り込まれました。サバイバーシップ支援ではアピアランスケアの充実も挙がりました。都道府県拠点病院としては、がん相談支援センターの認知度向上やその役割の理解促進にも努め、より多くの支援につなげたいと考えます。

編集後記

酒井新院長および新任職員を迎え、新たな布陣でこの4月を迎えました。今年度からの第4期がん対策推進計画では「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」が全体目標です。その一環として「サルコマーセンター」をこの4月に設立し、希少癌である肉腫の円滑な診療体制を確立しました。今後、病院機能評価一般病院3の受審を控え、医療の質と安全の向上にも職員一丸となって努めています。

副院長 地域連携室長 岸田 健

編集・発行

神奈川県立がんセンター
〒241-8515 横浜市旭区中尾 2-3-2

TEL 045-520-2222 (代)

<https://kcch.kanagawa-pho.jp/>

